

# 弘前城石垣修理

## 第7回～天守曳屋に備えて～冬期間の動き～

弘前城本丸東側石垣は、平成28年から解体修理に着手する計画で、その修理対象範囲には天守台石垣(天守真下の石垣)も含まれています。このため、石垣を解体する前に天守を移動させなければなりません。天守は曳屋(ひきや)により、現在位置する本丸南東隅から、本丸中央部へ約70m移動する予定です。その天守曳屋が、いよいよ今年8月下旬に始まります。

弘前城では、この冬の間にも天守曳屋の準備が着々と進められていました。今回は、日々刻々と変化していった弘前城での冬期間の光景を振り返ってみます。

まず、昨年11月25日から内濠の水抜きを開始しました。これは、天守曳屋の足場設置と工事用通路確保のために、濠を埋め立てる前段階として行ったものです。水中ポンプを使い、本丸の西側にある蓮池へ水を流しました。

そして、12月1日から、本丸東側石垣中央部から埋め立て工事を開始しています。水抜き後、濠底に溜

まった泥を土木用安定シートで覆い、その上に砂と砂利を敷きつめていきました。12月上旬は連日の降雪で、8日には弘前公園内の積雪が40cmを超えるような状況でしたが、そのような中、除雪をしながらも埋め立て工事は進められ、3月に完成しています。このようにして設けられた工事用の通路は、10年間続く石垣修理事業の第一歩であり、今後の工事の支えともなります。

一方、天守の内部では、1月に今まで展示されていた歴史資料の搬出を、2月末までに床下の基礎調査を実施しました。

平成27年の天守公開は、5月10日まで行います。柱や出格子、床下の構造など、江戸時代の城郭建造物としての特徴を見ることができている状態です。

5月11日からは天守を閉館し、8月下旬の天守曳屋工事に向けて、曳屋用の足場やレールの設置などの準備を進めていく予定です。



鷹丘橋から見た内濠（水抜き前）



鷹丘橋から見た内濠（水抜き後）



内濠埋め立て工事開始（12月）



埋め立てられた内濠（3月）



天守からの歴史資料（駕籠）搬出



床板をはがした天守（基礎調査）

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧下さい。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyou/shisetsu/park/2015-0217-1629-48.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎33・8739）